

会報順番番号V-4

建設・総合技術監理部門

荻須テクノコンサルタント 荻須雅夫

日本人と戦争

1. はじめに

我が国の歴史（戦を中心に動いてきた）も、外国の歴史（宗教と人種問題が加わる）も戦争を抜きにしては考えられない。筆者は決して戦争推進派ではないが、映画や書物についてもどうしてもその方面に関心が向いている。その中でも夏と真冬（V-5執筆担当の国枝氏と同行）に訪れた旧満州のことが強く印象に残っている。

戦争による死者の統計から紹介し、満州事変に大きくかかわった「辻政信」の生涯と当時の幹部の考え方について述べたい。

技術とは関係ないので、会報の趣旨には合わないかもしれないが、執筆者の勝手を許していただき、興味がある方は、我慢の限界まで読み進めていただければ幸いです。

2. 戦争による国別犠牲者数

1) 日清戦争（1894年7月～1895年3月）

日本：1万3800人、清国：3万5000人

2) 日露戦争（1904年2月～1905年9月）

日本：11万5600人、ロシア帝国：4万2600人

3) 第1次世界大戦（1914年7月～1918年11月）・・・抜粋

連合国側 ロシア：170万人、フランス：135万8000人、日本：300人

同盟国側 ドイツ：177万4000人、オーストリア：120万人、トルコ：32万人

4) 第2次世界大戦（1939年9月～1945年9月）・・・抜粋

枢軸国側 日本：310万人、ドイツ：689万人、オーストリア：118万人

連合国側 ソ連：2060万人、中国：1321万人、ポーランド：603万人、ユーゴ

スラビア：171万人、フランス：60万人、アメリカ：29万人

3. 日ソ戦：ノモンハン事件

1) 経緯

1939年5月から同年9月にかけて、満州国とモンゴル人民共和国の間の国境線をめぐって発生した紛争。1930年代に、満州国を実質的に支配していた日本（大日本帝国）と、満州国と国境を接し、モンゴルを衛星国としたソビエト連邦の間で断続的に発生した日ソ国境紛争（満蒙国境紛争）のひとつ。満州国軍とモンゴル人民軍の

日本技術士会 岐阜県支部 会報

2020. 6. 23



衝突に端を発し、両国の後ろ盾となった大日本帝国陸軍とソビエト労農赤軍が戦闘を展開し、一連の日ソ国境紛争のなかでも最大規模の軍事衝突となった。

辻政信に代表される、当時の日本の軍隊指導者たちの考え方は、

- ①夜襲が常套手段
- ②精神主義的教育（いかなる場合にも物質に対して精神の優越を説いた。）

③兵隊は消耗品（旅順港攻防を含む 203 高地の戦死者数 15400 名がその一例）

④生きて虜囚の辱めを受けず（日本兵の捕虜と戦死者の比率は、1 対 40。一方、日本軍と戦った欧米軍では、その比率が 4 対 1。欧米の兵士は、戦死するくらいなら、さっさと捕虜となる道を選んだが、日本兵は正反対であった。

第二次世界大戦下、アメリカ軍の捕虜になった日本兵の命が、必ずしも安泰ということではなかった。多くの日本兵は安全を保障されたが、激戦下ではアメリカ兵は日本兵捕虜を殺害していった。アメリカ軍には捕虜をとらない雰囲気があったというし、将校はアメリカ兵の投降日本兵虐殺を黙認していたともいう。また、アメリカ兵は捕虜でなくとも、日本兵の遺体を戦利品扱いにしたがった。日本兵の頭部を茹でて、皮を削ぎ、髑髏のみとして持ち帰ろうともした。日本兵がアメリカ、イギリスを「鬼畜米英」としたように、欧米側も日本人を「人間とサルの雑種」、「戦う虫けら」とみなしていた。これらの偏見が殺戮へのハードルを低くしていたのだ。）

2) ノモンハン事件における辻の行動

関東軍司令部では紛争の拡大を決定し、外蒙古のタムスク航空基地の空爆を計画した。これを察知した東京の参謀本部は電報で中止を指令したが、辻はこの電報を握りつぶし、作戦続行を知らせる返電を行っている。この電報の決裁書では、課長、参謀長および軍司令官の欄に辻の印が押され、代理とサインされていた。このころから関東軍及び辻の暴走が始まっている。関東軍は、ソ連・蒙古軍に関する情報と兵站の重要性を軽視し、敵の戦力を過小評価し、肉弾をもって敵の戦車に突入するという無謀な戦術を行った。

戦後、辻は「戦争は負けたと感じたものが、負けたのである。」「外交もまた、負けたと思うものが、負けるのである。」と記している。

[日本技術士会岐阜支部 会報の情報連絡先]

〒509-0109 各務原市テクノプラザ1-1 本館 5F

TEL : 0583-79-0580 FAX : 0583-85-4316 Email : gcea9901@ybb.ne.jp

ノモンハン事件では第 23 師団搜索隊長や歩兵第七十二連隊長など、辻によって自殺を強要された将校がいた。辻は捕虜交換によって戻ってきた将校たちにも自殺を強要した。

3) マレー作戦とシンガポール華僑粛清事件及びその後

ノモンハン事件の頃は北進論者であった辻であるが、次第に首相・東條英機に接近した。太平洋戦争開戦後は、マレー作戦で先頭に立って直接作戦指導を行い、敵軍戦車を奪取して敵軍陣地突入を行った。シンガポールの戦いで英軍を破りシンガポールを占領した日本軍は、市内の華僑 20 万人の一斉検問をおこない、この中から抗日分子であると判断した者を大量に処刑した（シンガポール華僑粛清事件）が、この敵性華僑剔出处断案は、作戦主任参謀の辻と朝枝繁春が起草



し山下司令官が決裁したものだ。戦後のイギリスによる戦犯裁判において、虐殺を命令した山下（フィリピンで勾留、1945 年 12 月 7 日処刑）、辻（逃亡）、虐殺に反対して中止を進言した河村参郎司令官と、やはり虐殺に反対した大石隊長の 2 名、が現場の指揮官としての虐殺の責任をとらされて戦犯として処刑された。

終戦時にバンコクにいた辻は逃亡し行方をくらませており、潜伏から再び姿を現わしたのは、両名とも処刑された後だった。マレー作戦終了後の 1942 年 3 月に辻は参謀本部作戦課に呼び戻され作戦班長となった。

太平洋戦争開戦後は、マレー作戦で先頭に立って直接作戦指導を行い、敵軍戦車を奪取して敵軍陣地突入を行った。シンガポールの戦いで英軍を破りシンガポールを占領した日本軍は、市内の華僑 20 万人の一斉検問をおこない、この中から抗日分子であると判断した者を大量に処刑した（シンガポール華僑粛清事件）が、この敵性華僑剔出处断案は、作戦主任参謀の辻と朝枝繁春が起草し山下司令官が決裁したものだ。戦後のイギリスによる戦犯裁判において、虐殺を命令した山下（1945 年 12 月 7 日処刑）、辻（逃亡）、虐殺に反対して中止を進言した河村参郎司令官と、やはり虐殺に反対した大石隊長の 2 名、が現場の指揮官としての虐殺の責任をとらされて戦犯として処刑された。

終戦時にバンコクにいた辻は逃亡し行方をくらませており、潜伏から再び姿を現わしたのは、両名とも処刑された後だった。マレー作戦終了後の 1942 年（昭和 17 年）3 月に辻は参謀本部作戦課に呼び戻され作戦班長となった。

その後、バターンから移動中の多くの米軍人が過度に疲労・重病化したために死亡

したパターン死の行進やガダルカナル島攻防戦にも深くかかわった。

4) 終戦後

高級参謀としてバンコクにおいて終戦を迎えた辻は、8月14日に方面軍司令官に「国家百年の為」潜伏することを願い出て、これを許可された。

辻は数名の青年将校とともに青木と名乗って日本人僧侶に変装しタイ国内に潜伏した。その後、1945年11月にハノイに渡り、さらにここから飛行機で重慶へと向かった。1948年に上海経由で日本に帰国し、戦犯で訴追されるのを避けて国内に潜伏する。追放解除後の1952年に旧石川1区から衆議院議員に初当選。同年、岸信介攻撃で自民党を除名されて議員を辞職したが、参議院議員(全国区)に鞍替えして第3位で当選した。

1961年、辻は参議院に対して東南アジアの視察を目的として40日間の休暇を申請したが、辻はラオス入りを支援した旧日本軍兵士・現地軍将校が4月21日に目撃したのを最後に消息を絶った。

4. 終わりに

参考にした「潜行三千里」を読んでいると、日本帝国軍人の悪い面の代表のような辻と潜行中の情に厚い辻とが同一人物とは、どうしても思えない。お笑い芸人の不倫騒ぎがマスコミで大きく取り上げられるような平和な我が国と何百万人もの犠牲者を出した我が国は同じ国であるが、どちらも長い歴史の中での、ほんのわずかな瞬間なのだろうか？

ここまでお付き合いいただいた読者には深く感謝申し上げます。

※参考文献

- ・「潜行三千里」 著者：辻政信、発行所：(株)毎日ワンス
- ・「ノモンハン」 著者：五味川純平、発行所：文芸春秋

表 1 フォーマット設定一覧

スタイルの名称	目的	フォント名	サイズ	レイアウト設定
会報標準	標準テキスト	HG丸ゴシック	10.5pt	全体の基本となる標準設定
会報標準字下げ	文章用	HG丸ゴシック	10.5pt	インデントを自動に行う
会報タイトル	表題用	HG丸ゴシック	14pt	
見出し1	章見出し	HG丸ゴシック	10.5pt	ボールド
表小さめ	表に使用	HG丸ゴシック	9pt	